

HP Email Archiving software
for IBM Lotus Domino
Version 2.1

ユーザーガイド



ご注意

© Copyright 2007–2010 Hewlett–Packard Development Company, L.P.

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett–Packard Company から使用許諾を得る必要があります。米国政府の連邦調達規則であるFAR 12.211および12.212の規定に従って、コマーシャルコンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーションおよびコマーシャルアイテムのテクニカルデータ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダーが提供する標準使用許諾規定に基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

Lotus®、Domino®、iNotes®、およびLotus Notes®は、米国におけるIBM Corporationの登録商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows XP®、およびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

Java™は、米国におけるSun Microsystems, Incの商標です。Adobe®およびAcrobat®は、Adobe Systems Incorporatedの登録商標です。

目次

1 概要	7
IAPとEAs Domino	7
ドキュメントのアーカイブについて	7
検索とインデックス作成について	8
インデックスが作成されるドキュメントタイプ	8
2 アーカイブされた電子メールの読み込みと表示	11
IAP Webインターフェイスの使用	11
簡易検索の実行	12
検索結果の送信	13
Domino Web Access (iNotes) の使用	13
Lotus Notesの使用	14
EAs Dominoプラグインの使用	15
キャッシュの使用	15
アーカイブされたメッセージの読み込み	15
キャッシュからのメッセージの削除	17
Lotus NotesメールボックスからのIAP Webインターフェイスの起動	17
署名付きまたは暗号化された電子メールの操作	18
DWAとLotus Notesで署名付きメッセージと暗号化メッセージを開く	18
IAP Webインターフェイスで署名付きメッセージと暗号化メッセージを開く	18
IAP Webインターフェイスから送信された署名付きメッセージと暗号化メッセージを開く	19
3 アーカイブされた電子メールのIAPからのエクスポート	21
Export Search Desktopツールによるメッセージのエクスポート	21
検索結果の保存	23
DLDファイル関連付けエラー	23
ファイルタイプの確認	24
ファイルタイプの関連付けの作成	24
ファイルタイプの関連付けの変更	24
Export Search Webインターフェイスによるメッセージのエクスポート	25
4 サポートとその他の資料	31
参考資料	31
サポート	31
表記上の規則および記号	31
索引	33

目 一 覧

1 [簡易検索]ページ	12
2 オプションメニュー	13
3 アーカイブされたメッセージを開く	14
4 アーカイブされたメッセージの読み込み	14
5 [Local Cache]ウィンドウ	16
6 [Manual Purge]ウィザード	17
7 IAP Webインターフェイスにアクセスするための2つの方法	18
8 電子メールのエクスポート	22
9 [クエリ マネージャ]ページの[保存した結果]表示	23

表一覽

1 IAPとEAs Dominoのユーザーアプリケーション	7
2 表記上の規則	31

1 概要

本書では、HP Email Archiving software for IBM Lotus Domino (EAs Domino) のユーザープログラムについて説明します。本書は、EAs Dominoプログラムのユーザーおよびシステム管理者を対象としています。

EAs Dominoのユーザープログラムを使用するには、WindowsおよびLotus Notesに関する知識が必要です。

- ・ [IAPとEAs Domino \(7ページ\)](#)
- ・ [ドキュメントのアーカイブについて \(7ページ\)](#)
- ・ [検索とインデックス作成について \(8ページ\)](#)

IAPとEAs Domino

IAPは、組織の電子メールメッセージや添付ファイルをアーカイブし、アーカイブしたメッセージを検索するための、安全なハードウェアとソフトウェアのフォールトトレランスシステムです。IAPの主な機能は、次のとおりです。

- ・ 組織が法令の要件に適合するための自動的でアクティブな電子メールアーカイブ
- ・ アーカイブされたメッセージを検索して読み込むための対話型クエリ

IAP Webインターフェイスにより、Webブラウザを使用してシステムにアーカイブされたドキュメントを検索し、クエリと検索結果を保存して再利用できます。IAP Webインターフェイスの使用方法については、『HP Integrated Archive Platformユーザーガイド』を参照してください。

EAs Dominoは、IAPで使用できるソフトウェアです。組織の設定によっては、このシステムと対話するために、表1に記載されているプログラムにアクセスできます。

表1 IAPとEAs Dominoのユーザーアプリケーション

アプリケーション	機能
EAs Dominoのユーザープログラム (カスタマーオプション)	IBM Lotus Notesを使用して、アーカイブされたメッセージを表示および操作します。
DWA Extension (カスタマーオプション)	Domino Web Access (iNotes) を使用して、アーカイブされたメッセージを表示および操作します。
IAP Webインターフェイス	Webブラウザを使用してシステムにアーカイブされた電子メールを検索し、クエリと検索結果を保存します。

ドキュメントのアーカイブについて

IAPシステムでは、システム管理者により設定された規則に基づいて電子メールメッセージをアーカイブします。たとえば、すべての送受信メッセージのアーカイブやメールボックスが一定のサイズに達したときのメッセージのアーカイブができます。システムがどのように設定されているかにもよりますが、アーカイブされたメッセージの先頭には、アーカイブされたことを示す特別なアイコンが表示されます。(セレクトティブ (メールボックス) アーカイブのみの機能になります)。

アーカイブでは、電子メールメッセージと添付ファイルのコピーを物理的に保存するだけでなく、そのメッセージを1つまたは複数の仮想ドキュメントコレクション（レポジトリ）に仮想的に保存します。ユーザーの個別のレポジトリには、送信または受信したメッセージのアーカイブされたコピーが含まれます。

ユーザーが他のレポジトリに対してアクセス権を持つこともあります。たとえば、上司や管理者が部下やユーザーのレポジトリに対してアクセス権を持つ場合などです。

検索とインデックス作成について

ユーザーのレポジトリ（またはアクセス権のある他のレポジトリ）にアーカイブされたメッセージや添付ファイルを検索して読み込むことができます。メッセージまたは添付ファイルの検索を実行すると、クエリが単語のインデックスと照合します。インデックスはメッセージがアーカイブされるたびにアップデートされます。

メッセージと添付ファイルの内容のインデックスを作成すると、単語がカタログ化され、後の検索で利用できるようになります。区切り文字（句読点など）は、インデックス作成の際は無視されます。メッセージの書式情報についてもインデックスは作成されません。HTMLマークアップタグなど、表示されないソースコードの語句は無視されます。

注記:

ドキュメントがアーカイブされる時点とそのドキュメントのインデックスが作成される時点にはタイムラグがあります。システムの設定によっては、ドキュメントをアーカイブした後少なくとも2時間は検索で使用できないことがあります。

インデックスが作成されるドキュメントタイプ

全文検索の可能なメッセージの添付ファイルは、内容のインデックスが作成されたメッセージの添付ファイルのみです。

次のタイプの添付ファイルについてはインデックスが作成されます。

- テキストファイル
- リッチテキスト形式 (.rtf)
- HTML (HyperText Markup Language) ファイル
- 次のMicrosoft Officeプログラムで使用されるファイル: Word、Excel、およびPowerPoint
これらのファイルタイプのインデックス作成は、Microsoft Office 2007および旧リリースのMicrosoft Officeでサポートします。
- 次のCorel WordPerfect Officeプログラムで使用されるファイル: WordPerfect、Quattro Pro、Presentations。
これらのファイルタイプのインデックス作成は、WordPerfect Office X3および旧リリースのWordPerfect Officeでサポートしています。
- Adobe Acrobat Readerで表示できるPDF (Portable Document Format) ファイル
- ZIPファイル
- 埋め込みメッセージ (RFC 822メッセージ)

ZIPファイルと埋め込みメッセージについては、ファイルの内容が展開された上でインデックスが作成されます。注記: 電子メール、HTMLファイル、Microsoft OfficeファイルあるいはPDFファイルとは違い、テキストファイルには通常言語情報（キャラクターセットあるいはエンコード情報）が含まれないため、正しい言語でインデックスは作成されない可能性があります。注記: IAP2.0以前を使用している場合に、ZIPファイル中に英語以外のファイル名が含まれていると、インデックスが作成されません。そのため、IAP2.0以前では英語以外の言語のファイル名を含むZIPファイルの内容の検索はサポートされません。

次のタイプの添付ファイルについてはインデックスは作成されません。

- ・ グラフィックファイル
- ・ 音楽ファイル
- ・ ビデオファイル

IAPシステムの設定方法によっては、これらのタイプのファイルをアーカイブできますが、インデックスは作成されません。これらのファイルは、ファイル名などの外部識別情報を使用しなければ検索できません。

2 アーカイブされた電子メールの読み込みと表示

アーカイブされたメッセージの読み込みおよび表示には、いくつかの方法があります。ユーザーがどの方法を利用できるかは、システム管理者に問い合わせてください。

- ・ [IAP Webインターフェイスの使用](#) (11ページ)
- ・ [Domino Web Access \(iNotes\) の使用](#) (13ページ)
- ・ [Lotus Notesの使用](#) (14ページ)
- ・ [署名付きまたは暗号化された電子メールの操作](#) (18ページ)

IAP Webインターフェイスの使用

WebブラウザからアクセスするIAP Webインターフェイスは、アーカイブされたメッセージの表示とメールボックスへの送信 (Mail To Me:メールボックスへの復元) に使用できます。最初にログインする前に、使用するURLをシステム管理者に問い合わせ確認してください。

別の方法として、管理者は、クリックするとIAP Webインターフェイスに直接移動するリンクをLotus Notesまたは社内イントラネットポータルに作成することもできます。

IAP Webインターフェイスには、以下のサポートされているWebブラウザを使用してアクセスできます。

- ・ Microsoft Internet Explorer for Windowsバージョン7.xおよび8.x
- ・ Mozilla Firefoxバージョン3.5.x以上

以下の手順でIAP Webインターフェイスにアクセスします。

1. Webブラウザのアドレスフィールドに、システム管理者から提供されたURL (Webアドレス) を入力します。

Webブラウザにログイン画面が表示されます。

注記:

IAPシングルサインオンが設定されている場合は、ログイン画面は表示されません。シングルサインオンの場合、メールアカウントにログインすると、自動的にIAPで認証が行われます。

2. ユーザー名とパスワードを入力します。

(インターネットアドレスもしくはLotus Notesのメールアカウントで使用している名前) Domino DirectoryのPerson Documentでの「短縮名」を入力します。どちらを利用しているかについてはシステム管理者にお問い合わせください。

パスワードは、Notes Internetパスワードです。このフィールドでは、大文字と小文字が区別されません。

3. 言語を選択します。

4. [ログイン]をクリックします。
[簡易検索]ページが表示されます。
5. ログアウトするには、ツールバーの[ログアウト]をクリックします。

簡易検索の実行

[簡易検索]ページでは、あらかじめ設定した期間や[検索対象]フィールドに入力した語句で、電子メールメッセージや添付ファイルを検索できます。

簡易検索を実行するには、以下の手順に従ってください。

1. ツールバーで[新規検索]をクリックします。
[簡易検索]ページが表示されます。

コンテンツタイプ: ?

期間: ?

レポジトリ: ?

本文:

図1 [簡易検索]ページ

2. [簡易検索]ページにある以下のフィールドを使用して検索します。
 - ・ [コンテンツ タイプ]: 検索を行うコンテンツのタイプを選択。メッセージの検索の場合、「電子メール」を選択。
 - ・ [期間]: 検索対象とする期間。リストから期間を選択します。
 - ・ [レポジトリ]: 検索するレポジトリ。アクセス権のあるレポジトリだけが表示されます。たとえば、アーカイブされた自分の電子メールは検索できますが、システム管理者からジョン・スミスのレポジトリへのアクセス権が付与されなければ、ジョン・スミスの電子メールは検索できません。レポジトリはアルファベット順に表示されます。
 - ・ [本文]: メッセージ本文を検索する語句。件名、差出人、あて先などのメッセージフィールドは検索対象になりません。メッセージの添付ファイルの内容も検索対象になります。
できるだけ詳細な検索テキストを入力してください。一般的に、[検索対象]フィールドに多くの情報を入力するほど、検索結果を絞り込むことができます。このフィールドが空白の場合、クエリで指定されたデータ範囲のすべてのドキュメントが検索されます。
3. クエリの定義が完了したら、[検索開始]をクリックして検索を開始します。
[検索結果]ページに、最初の50個の結果が表示されます。他のバーをクリックすると、次の50個の結果を表示できます。

注記:

検索結果が読み込まれると、最も新しいドキュメントから順に表示されます。

4. [検索結果]ページでは、リストの項目をクリックすると電子メールの内容を表示できます。

詳細検索機能を含む検索機能の詳細な使用方法については、『HP Integrated Archive Platformユーザーガイド』を参照してください。

検索結果の送信

ユーザーは、アーカイブされたメッセージのコピーをIAP Webインターフェイスを使用してユーザーのメールボックスに送信できます。

電子メールのコピーを送信するには、以下の手順に従ってください。

1. [検索結果]ページで、送信する各メッセージの横にあるチェックボックスにチェックを入れます。すべての項目を送信する場合、この手順は必要ありません。
2. [追加オプション]をクリックし、オプションメニューを開きます。



図2 オプションメニュー

3. すべての検索結果を送信するには、[送信 すべての項目]をクリックします。選択した検索結果を送信するには、[送信 チェック項目]をクリックします。

項目を送信する際、確認メッセージが表示されます。

アーカイブされたメッセージは、Lotus NotesまたはDomino Web Accessの通常の電子メールメッセージと同じように操作できます。たとえば、アーカイブされた電子メールについて返信、転送、削除ができます。アーカイブされた電子メールを削除すると、メッセージはユーザーのメールボックスから削除されますが、IAPシステムからは削除されません。

注記:

署名付きメッセージや暗号化メッセージを、IAPから自分のNotesメールボックスに送信した場合、これを開くには特別な手順が必要になります。手順については、「[IAP Webインターフェイスから送信された署名付きメッセージと暗号化メッセージを開く](#)」(19ページ)を参照してください。

Domino Web Access (iNotes) の使用

組織内でこのオプションが使用可能である場合は、DWA上でアーカイブされたメッセージにアクセスできます。DWAはジャーナル (コンプライアンス) アーカイブの場合は利用できません。

アーカイブされたメッセージを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. DWAでメッセージを開きます。

メッセージをアーカイブした時点で、メッセージ本文の全部または一部と、添付ファイルが削除されている可能性があります。

メッセージ本文に、たとえば次のような表記のリンクが表示されます。「Click here to retrieve the full document.(ドキュメント全体を読み込むには、ここをクリックしてください。)」

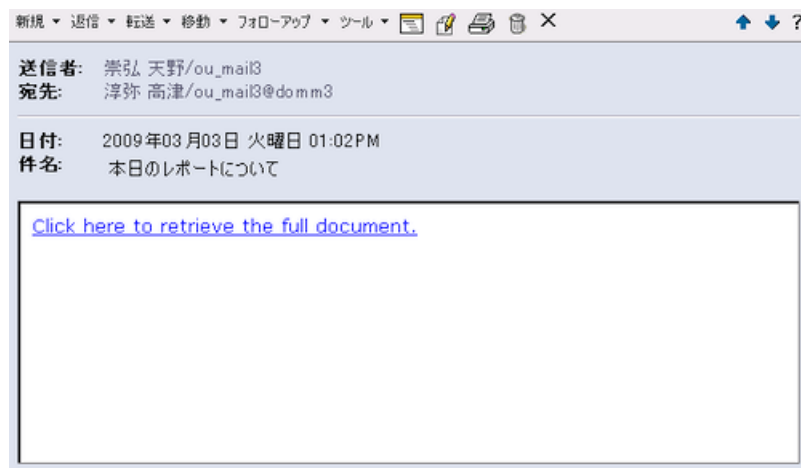


図3 アーカイブされたメッセージを開く

2. メッセージ内のリンクをクリックします。

メッセージ全体が表示されます。このメッセージ内容は、別のウィンドウまたはタブ(ブラウザによって異なる)に表示されます。

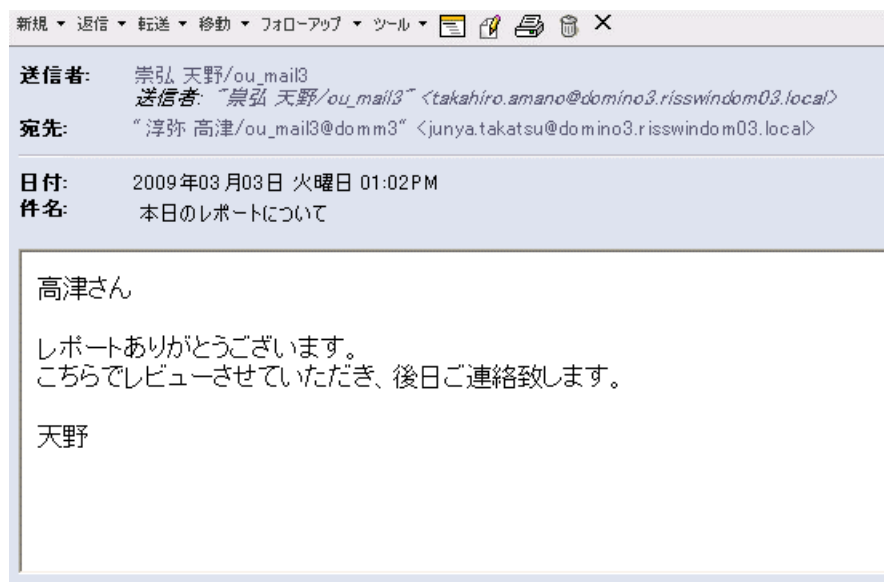


図4 アーカイブされたメッセージの読み込み

DWAで開いた任意のメッセージと同様に、返信や転送などの機能を実行できます。

Lotus Notesの使用

組織で該当するオプションを利用できる場合は、Webブラウザを使用してアーカイブされたメッセージを読み込む以外に、Lotus Notesメールボックスからアーカイブされたメッセージにアクセスすることができま

す。Lotus Notesメールボックスからアーカイブされたメッセージにアクセスするには、この項で説明する方法のいずれかが使用できます。

組織の設定によっては、メッセージがアーカイブされたことを示す特別なアイコンがメッセージの先頭に表示されます。

EAs Dominoプラグインの使用

Windowsを使用しているユーザーは、EAs Dominoプラグインをコンピューターにインストールできます。プラグインがインストールされご使用のコンピューターがネットワークにログオンしている場合は、メールボックスでアーカイブされたメッセージを選択するだけでメッセージを表示できます。Notesで開いた任意のメッセージと同様に、返信や転送などの機能を実行できます。

組織でプラグインを利用できるようになっている場合は、システム管理者がプラグインをインストールするか、またはユーザー自身がインストールすることができます。ユーザーがプラグインをインストールする場合は、インストール手順をシステム管理者に問い合わせてください。

キャッシュの使用

ユーザーが頻繁に出張する場合、システム管理者は、そのユーザーのノートブックまたはラップトップコンピューターにキャッシュをインストールできます。キャッシュとは、アーカイブされたメッセージのコピーを格納するストレージフォルダです。通常、キャッシュはサイズや期間で制限されます。

組織のネットワークに接続していない場合でも、キャッシュに格納されているメッセージであれば、アーカイブされたメッセージにアクセスできます。アーカイブされたメッセージは、Notesメールボックスでメッセージを選択すると、他のメッセージと同様に表示されます。

ネットワークに接続され、コンピューターにEAs Dominoプラグインもインストールされている場合は、アーカイブされているメッセージを即座に開くことができます。

アーカイブされたメッセージの読み込み

アーカイブされたメッセージをIAPからキャッシュにダウンロードするには、以下の手順に従ってください。

1. デスクトップまたはスタートメニューにあるLocal Cacheアイコンをダブルクリックします。



[Local Cache]ウィンドウが表示されます。

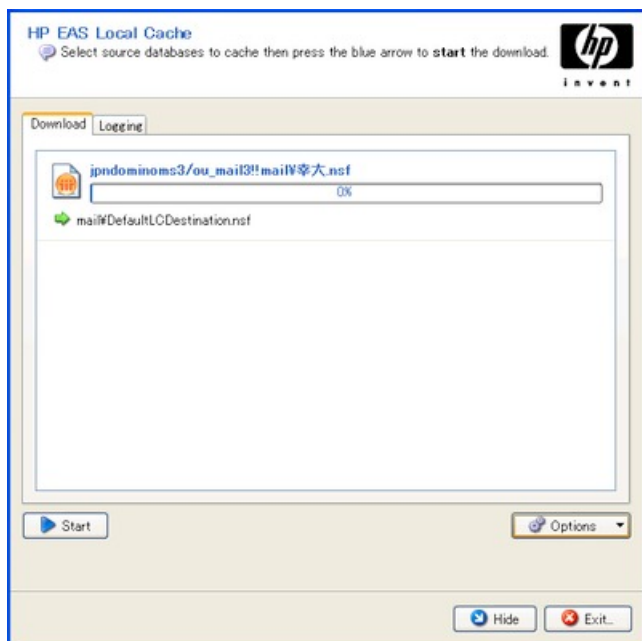






図5 [Local Cache]ウィンドウ

2. [Start]をクリックして、アーカイブされたメッセージをダウンロードします。

[Local Cache]ウィンドウの[Logging]タブに結果が表示されます。

タブの上部のアイコンを使用して、ログエントリーをクリアまたはコピーできます。

-  特定のタイプのログエントリー（サマリー、警告、エラーなど）をクリアします。
-  特定のエントリー（複数可）をクリアします。
-  エントリー（複数可）をコピーします。
-  ログ内のすべてのエントリーをクリアします。

3. ダウンロードが完了したら、[Exit]をクリックして[Local Cache]ウィンドウを閉じるかまたは[Hide]をクリックしてLocal Cacheをバックグラウンドで引き続き実行します。

Local Cacheを非表示にする場合、アイコンはシステムトレイにそのまま表示されます。Windowsからログアウトすると、Local Cacheは自動的に終了します。

Lotus Notesでは、アーカイブ済みメッセージがキャッシュに保存されている場合、ユーザーがメールボックスにあるアーカイブ済みメッセージを選択すると、そのメッセージは他のメッセージと同じように表示されます。

キャッシュは、多くの場合、サイズや期間で制限されます。たとえば、6か月より新しいメッセージだけがキャッシュされてメールボックスで表示できます。

キャッシュからのメッセージの削除

キャッシュについて設定された期限やサイズ制限を超えると、古いメッセージから順に自動的にキャッシュから削除されます。

さらに、以下の手順に従って、キャッシュされたメッセージを手動で削除することもできます。

1. デスクトップまたはスタートメニューにあるLocal Cacheアイコンをダブルクリックします。
2. [Local Cache]ウィンドウで、[Options]をクリックし、[Manual Purge]を選択します。
[Manual Purge]ウィザードが表示され、キャッシュ内にあるメッセージのリストが示されます。

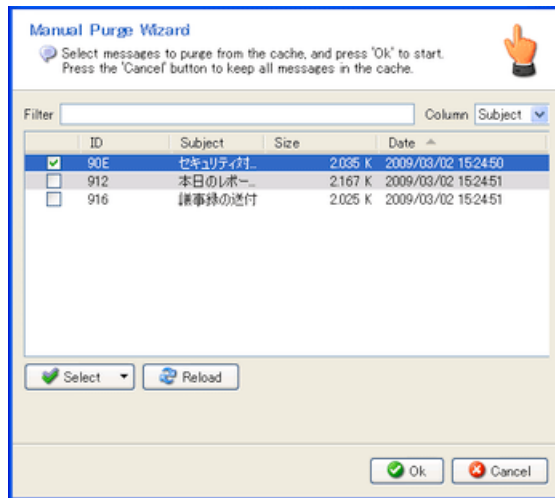


図6 [Manual Purge]ウィザード

3. [Column]ドロップダウンリストを使用して、メッセージを日付、サイズ、件名、またはIDで選別し、[Reload]をクリックして、メッセージリストを更新します。
4. 削除するメッセージを選択して、[OK]をクリックします。
キャッシュされたメッセージをすべて削除するには、[Select]ドロップダウンリストで、[All]を選択し[OK]をクリックします。
5. [Exit]をクリックして、[Local Cache]ウィンドウを閉じます。

注記:

キャッシュからメッセージを削除しても、IAPからは削除されません。

Lotus NotesメールボックスからのIAP Webインターフェイスの起動

組織の設定によって、NotesメールボックスからIAP Webインターフェイスを起動するオプションが利用できます。たとえば、NotesのナビゲーションペインでIAPアイコンをクリックし、受信ボックスで[Search the IAP]ボタンをクリックするか、[アクション]メニューで[Search The IAP Archive]を選択します。

これらのオプションにより、ご使用のWebブラウザでIAP Webインターフェイスが開きます。組織のオプション設定により、リンクをクリックした後で、IAP Webインターフェイスへのログオンが必要になることがあります。

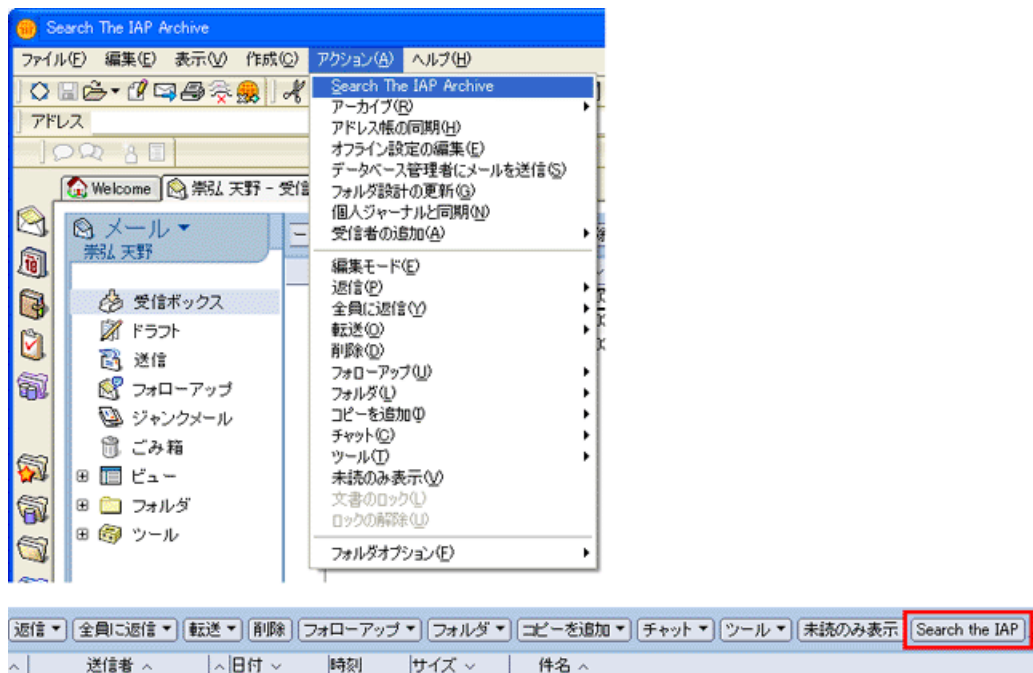


図7 IAP Webインターフェイスにアクセスするための2つの方法

署名付きまたは暗号化された電子メールの操作

暗号化されたメッセージまたは電子署名を使用したメッセージを受信することがあるかもしれません。

署名付き電子メールでは、ユーザーは送信元の識別情報を検証して、メッセージが送信後に改ざんされていないことを確認できます。暗号化された電子メールではメッセージを保護することで、より高度なセキュリティが実現されます。

署名付きメッセージと暗号化メッセージは、メッセージ内のすべてのデータをそのままに保つencapsulated形式でIAPに格納されます。

DWAとLotus Notesで署名付きメッセージと暗号化メッセージを開く

アーカイブされた暗号化メッセージをDWAで直接開くことができます。Lotus Notesでは、ユーザーのコンピューターにEAs DominoプラグインまたはLocal Cacheがインストールされていれば、暗号化メッセージを開くことができます。メッセージの復号化に必要な秘密鍵は、NotesユーザーIDに格納されています。

署名付きメッセージは、ユーザーが送信元の証明済み公開鍵を保持している場合に開くことができます。この公開鍵は、Domino DirectoryまたはユーザーのAddress Bookに格納されています。

IAP Webインターフェイスで署名付きメッセージと暗号化メッセージを開く

IAP Webインターフェイスを使用している場合は、送信元の公開鍵を保持していれば、Webブラウザで署名付きメッセージを表示できます。署名付きメッセージや添付ファイルを検索して、これらをNotesメールボックスに送信またはエクスポートすることもできます。

暗号化電子メールをWebインターフェイスで表示することはできません。暗号化電子メールは、Notesメールボックスに送信またはエクスポートすれば表示できます。

このメッセージをユーザーのメールボックスに送信した場合、次のIAP Webインターフェイスから送信された署名付きメッセージと暗号化メッセージを開くで説明する手順を実行してください。

署名付きメッセージと暗号化メッセージをエクスポートするには、「[アーカイブされた電子メールのIAPからのエクスポート](#)」(21ページ)を参照してください。通常、メッセージのエクスポートは、法務責任者およびコンプライアンス責任者のために用意された機能です。

IAP Webインターフェイスから送信された署名付きメッセージと暗号化メッセージを開く

IAP Webインターフェイスからメールボックスに送信された署名付きメッセージと暗号化メッセージには、Notesメールファイルの添付ファイルが含まれています。この添付ファイルには、アーカイブされたメッセージが格納されています。この添付ファイルを開くには、以下の手順に従ってください。

1. Lotus Notesメールボックスで、メッセージに添付されているファイルをダブルクリックします。
添付ファイルが開き、1つのドキュメントを含むNotesデータベースビューが表示されます。
2. ドキュメントを開かずに、クリップボードにコピーします。
3. Lotus Notesメールボックスに戻り、空のフォルダに移動します
(必要な場合は、新しいフォルダを作成することもできます。Draftsフォルダは使用しないでください)。
4. クリップボードに格納されているドキュメントをメールフォルダに貼り付けます。
5. フォルダからメッセージを開きます。

注記:

上記の手順は、Webインターフェイスからメールボックスに以下のメッセージを送信した場合にも適用できます。

- ・ HTMLリンクが切断されている古いメッセージ
 - ・ カスタムフォームを含むメッセージ (ワークフロープログラムからのカスタムフォームなど)
-

3 アーカイブされた電子メールのIAPからのエクスポート

エクスポートは、指定ユーザーがアーカイブされたメッセージをIAPからLotus Notesデータベースにエクスポートできる高度な機能です。IAP Webインターフェイスで[エクスポート すべての項目]または[エクスポート チェック項目]を選択すると、ユーザーが選択したアーカイブされたメッセージへのリンクが、DLDファイルと呼ばれる特別なダウンロードファイルに格納されます。エクスポートプロセスでは、これらのリンクを使用してメッセージのコピーをダウンロードし、それらをユーザーのメールボックス、またはユーザーがアクセスできるメールデータベースに転送します。元のメッセージは、IAP上に維持されます。

メッセージは、2つの方法（コンピューターにインストールされたExport Search Desktopツールを使用する方法またはWebブラウザからExport Search Webインターフェイスを使用する方法）でエクスポートできます。

- [Export Search Desktopツールによるメッセージのエクスポート \(21ページ\)](#)
- [Export Search Webインターフェイスによるメッセージのエクスポート \(25ページ\)](#)

Export Search Desktopツールによるメッセージのエクスポート

注記:

Export Search Desktopツールを使用するには、システム管理者がEAs Domino Local Cacheソフトウェアをユーザーのコンピューターにインストールして設定する必要があります。このソフトウェアにエクスポートツール (ExportSearch.exe) が含まれています。ソフトウェアのインストールには、Java Runtime Environment (JRE) バージョン6以降が必要です。

IAPからメッセージをエクスポートするには、以下の手順に従ってください。

1. Lotus Notesメールボックスにエクスポートされたメッセージを保存するためのフォルダを作成します。メッセージをアクセス権のある別のメールボックスにエクスポートする場合は、そのメールボックスにフォルダを作成します。

2. IAP Webインターフェイス上で、下記a～fの手順を実施します。
 - a. 該当するメッセージを検索します。
 複雑な検索を行う場合は、『HP Integrated Archive Platformユーザーガイド』に記載されている詳細検索の手順を使用してください。
 検索結果が[検索結果]ページに表示されます。
 - b. 結果が500件を超える場合は、「[検索結果の保存](#)」(23ページ)に記載されている手順に従ってください。
 - c. [検索結果]ページで、エクスポートする各メッセージの横にあるチェックボックスをオンにします。すべての項目をエクスポートする場合は、この手順は必要ありません。
 - d. [追加オプション]をクリックし、オプションメニューを開きます。
 - e. すべての検索結果をエクスポートするには、[エクスポート すべての項目]をクリックします。選択した項目だけをエクスポートするには、[エクスポート チェック項目]をクリックします。
 [ファイルのダウンロード]ダイアログボックスが表示されます。
 - f. [開く]をクリックして、DLDファイルを開きます。
 エラーメッセージが表示される場合は、「[DLDファイル関連付けエラー](#)」(23ページ)で問題の解決方法を確認してください。
3. 表示されたダイアログボックスでLotus Notesパスワードを入力し、[OK]をクリックします。
 [Export Search]ウィザードが表示されます。
4. [Output]領域で、ダウンロードされたメッセージを転送するLotus Notesメールボックスを選択します。
 デフォルトのメールボックスは、ユーザーのコンピューター上にあるメールボックスです。
5. メールボックスを展開して、手順1で作成したフォルダを選択します。

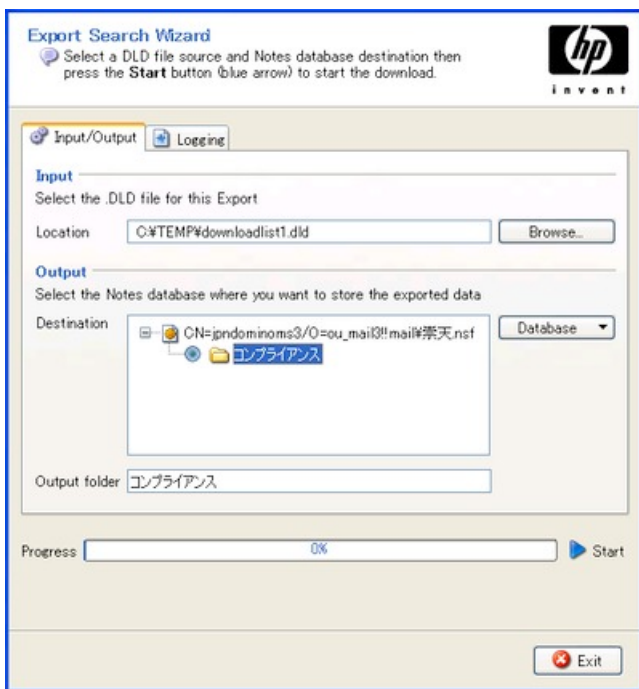


図8 電子メールのエクスポート

6. 進捗状況バーの横にある[Start]をクリックして、エクスポートを開始します。
 エクスポートが完了したら、ログに結果が表示されます。

7. ログを参照し、エクスポートプロセスの実行中にエラーが発生したかどうかを確認します。
8. ログにダウンロードの正常な完了が示されたら、[Exit]をクリックして[Export Search]ウィザードを閉じます。
9. Lotus Notesを使用して、エクスポートされたメッセージを表示します。

検索結果の保存

500件を超える検索結果が表示された場合は、エクスポートの前に検索結果を保存してください。結果を保存すると、検索で検出されたすべてのメッセージをエクスポートできます。結果を保存しなければ、500件のメッセージの中で現在表示されている部分だけがエクスポートされます。

検索結果はIAPで1週間保存されます（訴訟ホールドに格納された検索結果には、1週間の期間は適用されません。訴訟ホールドについて詳しくは、『HP Integrated Archive Platformユーザーガイド』の「隔離レポジトリの使用」を参照してください）。

検索結果を保存するには、以下の手順に従ってください。

1. [検索結果ページ]で、[追加オプション]をクリックし、次いで[現在の結果の保存]をクリックします。
[結果の保存]ページが表示されます。
2. [検索結果を保存]フィールドに、保存する検索結果の名前を入力し、[すぐに保存]をクリックします。
名前は60文字以内に制限されています。
特殊文字 (@ \$ % ^ & * # () [] / ¥ { + } ` ~ = |) は使用できません。
3. Webインターフェイスのツールバーで[クエリ マネージャ]をクリックします。
[クエリ マネージャ]ページはデフォルトで保存した結果をすべて表示します。

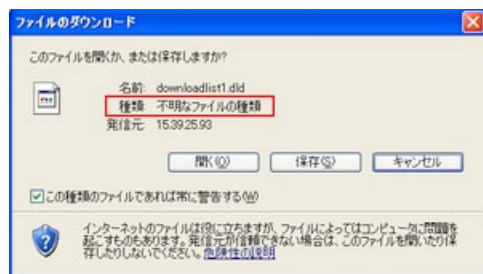


図9 [クエリ マネージャ]ページの[保存した結果]表示

4. エクスポートする検索結果を選択した後、[再ロード]をクリックして[検索結果]ページをロードします。

DLDファイル関連付けエラー

ファイルのエクスポート時に不明のファイルタイプエラーが表示された場合は、使用しているWindowsシステムでDLDファイルタイプがExport Search Desktopツールに関連付けられているかどうかを確認します。



ファイルタイプの確認

DLDファイルタイプがコンピューターにインストールされているかを確認するには、以下の手順に従ってください。

- ・ (Windows Vista) [コントロールパネル]で、[既定のプログラム]を選択し、[ファイルの種類またはプロトコルのプログラムへの関連付け]をクリックして、ファイルタイプのリストを表示します。
- ・ (その他のWindowsオペレーティングシステム) [コントロールパネル]で、[ツール]メニューの[フォルダオプション]をクリックして、[ファイルの種類]タブを開き、ファイルタイプのリストを表示します。

ファイルタイプの関連付けの作成

ファイルタイプのリストにDLDが表示されない場合、DLDファイルタイプへの関連付けを作成します。

Windows Vistaの場合:

1. DLDファイル (downloadlist2.dldなど) を右クリックし、[プロパティ]を選択します。
2. [全般]タブで、[変更]をクリックします。
3. [参照]をクリックし、以下の場所を参照します。
`\Program Files\Lotus\Notes\Localcache`
4. [ExportSearch.exe]を選択し、[開く]をクリックします。
5. [OK]をクリックして、DLDファイルタイプをExport Search Desktopツールに関連付けます。
6. DLDファイルをダブルクリックし、続いてファイルをエクスポートします。

その他のWindowsオペレーティングシステムの場合:

1. [コントロールパネル]で[ツール]メニューの[フォルダオプション]を選択し、[ファイルの種類]タブをクリックします。
2. [新規]をクリックします。
3. [ファイル拡張子]ボックスで、DLDと入力し、[OK]をクリックします。
4. [拡張子 'DLD' の詳細]で、[変更]をクリックします。
5. 表示されたダイアログボックスで[一覧からプログラムを選択する]をクリックし、[OK]をクリックします。
6. [ファイルを開くプログラムの選択]で[参照]をクリックします。
7. 以下のフォルダを参照します。
`\Program Files\Lotus\Notes\Localcache`
8. [ExportSearch.exe]を選択し、[開く]をクリックします。
9. [OK]をクリックして、DLDファイルタイプをExport Search Desktopツールに関連付けます。

ファイルタイプの関連付けの変更

DLDファイルタイプを別のプログラムに関連付ける場合は、ファイルタイプの関連付けを変更してください。

Windows Vistaの場合:

1. [コントロールパネル]で、[既定のプログラム]を選択し、[ファイルの種類またはプロトコルのプログラムへの関連付け]をクリックします。
2. [.dld]拡張子を選択し、[プログラムの変更]をクリックします。

3. [ファイルを開くプログラムの選択]で[参照]をクリックします。
4. 以下のフォルダを参照します。

```
\Program Files\Lotus\Notes\Localcache
```
5. [ExportSearch.exe]を選択し、[開く]をクリックします。
6. [OK]をクリックして、DLDファイルタイプをExport Search Desktopツールに関連付けます。

その他のWindowsオペレーティングシステムの場合:

1. [コントロールパネル]で[ツール]メニューの[フォルダオプション]を選択し、[ファイルの種類]タブをクリックします。
2. [ファイルの種類]タブでDLD拡張子を選択し、[変更]をクリックします。
3. 表示されたダイアログボックスで[一覧からプログラムを選択する]をクリックし、[OK]をクリックします。
4. [ファイルを開くプログラムの選択]ダイアログボックスで、[参照]をクリックします。
5. 以下のフォルダを参照します。

```
\Program Files\Lotus\Notes\Localcache
```
6. [ExportSearch.exe]を選択し、[開く]をクリックします。
7. [OK]をクリックして、DLDファイルタイプをExport Search Desktopツールに関連付けます。

Export Search Webインターフェイスによるメッセージのエクスポート

WebベースのExport Requestフォームを使用してIAPからメッセージをエクスポートできます。このオプションが組織内で使用できるかどうかについては、システム管理者に問い合わせてください。Webベースのエクスポートでは、特別に指定されたネットワークディレクトリのメールデータベースに検索結果がダウンロードされます。

Export Requestの作業は、Webブラウザから以下の手順を実行してください。

1. IAP Webインターフェイス:
 - a. 該当するメッセージを検索します。
 複雑な検索を行う場合は、『HP Integrated Archive Platformユーザーガイド』に記載されている詳細検索の手順を使用してください。
 検索結果が[検索結果]ページに表示されます。
 - b. 結果が500件を超える場合は、「[検索結果の保存](#)」(23ページ)に記載されている手順に従ってください。
 - c. [検索結果]ページで、エクスポートする各メッセージの横にあるチェックボックスをオンにします。すべての項目をエクスポートする場合は、この手順は必要ありません。
 - d. [追加オプション]をクリックし、オプションメニューを開きます。
 - e. すべての検索結果をエクスポートするには、[エクスポートすべての項目]をクリックします。選択した項目をエクスポートするには、[エクスポートチェック項目]をクリックします。
 - f. [ファイルのダウンロード]ダイアログボックスで、[保存]をクリックしてDLDファイルを保存します。
 システム管理者がDLDファイルを保存するためのネットワークディレクトリを作成しています。その場所に移動し、ファイルを保存します。
 - g. IAPのWebインターフェイスからログアウトします。

2. システム管理者から与えられたURLを使用して、Export Search Webインターフェイスにログインします。
3. メニューの[Create Export Request (Export Requestの作成)]をクリックします。
Export Requestフォームが表示されます。
4. フォームの[IAP & DLD file]領域で設定内容を入力します。

IAP & DLD file

IAP host name / IP Address: rimr9.usa.hp.com:81

DLD File: \\Compliance_downloads\compliance_1-15-10.dld [Browse...]

フィールド	説明
[IAP host name/IP Address (IAPホスト名/IPアドレス)]	このボックスは入力済みです。入力されていない場合は、矢印をクリックし、リストにあるIAP名を選択します。
[DLD File (DLDファイル)]	手順1fで保存したDLDファイルを参照し、[開く]をクリックします。

5. フォームの[Destination Database (ターゲットデータベース)]領域で設定内容を入力します。

この設定情報によりエクスポートされたメッセージの転送先が決まります。入力する設定内容は選択したターゲットオプションによって異なります。

メッセージは、特別に指定されたネットワークディレクトリのメールデータベースにのみエクスポートできます。

The screenshot shows a configuration window titled "Destination Database". It contains several fields and options:

- Destination Options:** Three radio buttons: "Append data to an existing db", "Create a new db" (selected), and "Create only if db does not exist".
- Server:** A "Select" button and a text field containing "Server1/Compliance_export1".
- Database filename:** A text field containing "Compliance_2010.nsf".
- Folder name(optional):** A text field containing "Bennett_John".
- New Database Title:** A text field containing "Compliance 2010".
- DB Design to Template:** A dropdown menu showing "mail85.ntf".
- DB will inherit from Template:** Two radio buttons: "yes" (selected) and "no".

フィールド	説明
[Destination options (ターゲットオプション)]	次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Append data to an existing db (既存のDBにデータを追加)] エクスポートメッセージを現在あるメールデータベースに追加します。 • [Create a new db (新しいDBを作成)] 新しいメールデータベースを作成し、エクスポートメッセージを保存します。 • [Create only if db does not exist (DBが存在しない場合のみ作成)] データベースが存在しない場合にのみ、エクスポートメッセージ用のメールデータベースを新規に作成します。 既存のメールデータベース名が不明の場合には、このオプションを使用してください。
[Server (サーバー)]	[Select(選択)]をクリックし、アーカイブされたメッセージをエクスポートするサーバーおよびディレクトリを選択し、[OK]をクリックします。 リストにあるサーバーおよびディレクトリしか使用できません。
[Database filename (データベースファイル名)]	エクスポートメッセージを保存するためのメールデータベースの名前を入力します。これは、事前に作成したデータベースの名前または新しいデータベースの名前になります。
[Folder name (optional) (フォルダ名 (オプション))]	必要な場合は、メッセージの抽出先となるメールフォルダの名前を入力します。 フォルダ名を入力しない場合、メッセージは[All Documents(すべての文書)]で表示されます。

フィールド	説明
[New Database Title (新しいデータベースのタイトル)]	新しいデータベースを作成する場合は、データベースのタイトルを入力します。
[DB Design to Template (DB設計用テンプレート)]	新しいデータベースを作成する場合は、矢印をクリックしてデータベースのテンプレートを選択します。
[Database will inherit from Template (テンプレートから継承)]	新しいデータベースを作成する場合は、[Yes (はい)]をクリックします。

6. フォームの[Notification (通知)]領域で設定内容を入力します。

エクスポートメッセージを表示できるようになったら、ユーザー（およびユーザーが選択した他の受信者）に通知電子メールで知らせます。この電子メールには、メッセージを格納しているメールデータベースへのリンクが含まれます。

フィールド	説明
[From/Sender Name (From/Sender名)]	ユーザー名が表示されます。
[Recipients (受信者)]	ユーザーの名前が自動的に表示されます。他の受信者を追加するには、[Select (選択)]をクリックし、リストから名前（複数可）を選択し、[OK]をクリックします。
[Subject (件名)]	電子メールの件名として表示される語句が示されています。件名をデフォルトから変更することができます。
[Text for Destination DB Link (ターゲットDBリンク用テキスト)]	エクスポートメッセージへの実際のリンクを示すテキストです。テキストをデフォルトから変更することができます。
[Additional Body text (本文に追加)]	メッセージの本文に関する任意のコメントを追加します。たとえば、メールデータベース内の新しいフォルダにメッセージをエクスポートする場合は、リンクを使用すると受信ボックスに対応するデータベースが開くので受信者は他のフォルダを開く必要があるという説明を加えることができます。

7. フォームが完成したら、[Submit (送信)]をクリックします。
メッセージがエクスポートされて受信者に通知されるまでにかかる時間は、システム管理者が設定したスケジュールによって変わります。
8. エクスポート要求は実行中の状態であれば編集できます。
 - a. メニューの[Running Requests (実行中の要求)]をクリックします。
 - b. 編集する要求をクリックして開きます。
 - c. [Edit Document (ドキュメントの編集)]をクリックします。
 - d. 必要な変更を行い、[Submit (送信)]をクリックします。

完了したエクスポートは、メニューの[Success Requests (成功した要求)]をクリックし、フォームの下部にある[Results (結果)]領域を表示することで確認できます。

問題が検出されたエクスポートは、メニューの[Request in Error (エラーが発生した要求)]で表示されます。エラーが発生した場合はシステム管理者に知らせてください。

4 サポートとその他の資料

参考資料

ユーザー向けとして、本書に加え、『HP Integrated Archive Platformユーザーガイド』があります。

サポート

HPソフトウェアサポートのWebサイトを参照するには、<http://www.hp.com/go/hpsupport> (日本語) にアクセスしてください。

HPソフトウェアサポートオンラインは、インタラクティブなテクニカルサポートツールへの効率的なアクセスを提供します。大切なサポートカスタマーである皆様は、サポートサイトを使用して、以下の利点を得ることができます。


- ・ 関心のある技術ドキュメントの検索
- ・ サポートケースと拡張要求の送信と追跡
- ・ ソフトウェアパッチのダウンロード
- ・ サポート契約の管理
- ・ HPサポート契約の検索
- ・ 使用可能なサービスの情報の確認
- ・ 他のソフトウェアカスタマーとのディスカッションへの参加
- ・ ソフトウェアトレーニングの検索と登録

ほとんどのサポートエリアでは、HPパスポートユーザーとして登録してサインインする必要があります。多くの場合、サポート契約も必要です。

アクセスレベルについて詳しくは、http://support.openview.hp.com/new_access_levels.jsp (日本語) にアクセスしてください。

表記上の規則および記号

表2 表記上の規則

規則	要素
メディアム ブルーの語句: 	クロスリファレンス リンクおよび電子メール アドレス
メディアム ブルーの下線付き語句 (http://www.hp.com/jp)	Webサイト アドレス
太字	・ アプリケーション名および強調すべき語句

規則	要素
括弧([])で表示	<ul style="list-style-type: none"> ・ キー名 ・ ボックスなどのGUIで入力される文字列 ・ クリックおよび選択されるGUI(メニューおよびリスト項目、ボタン、チェックボックス)
Monospaceフォント	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファイル名およびディレクトリ名 ・ システム出力 ・ コード ・ コマンドラインで入力した文字列
イタリック体のMonospaceフォント	<ul style="list-style-type: none"> ・ コード変数 ・ コマンドライン変数
太字体のMonospaceフォント	ファイル名、ディレクトリ名、システム出力、コード、コマンドラインで入力される文字列の強調

① **重要:**

詳細情報または特定の手順を示します。

📖 **注記:**

補足情報を示します。

💡 **ヒント:**

役に立つ情報やショートカットを示します。

索引

D

- DLDファイルタイプの関連付け, 23
- Domino Web Access
 - 「DWA」を参照。
- DWA
 - アーカイブされた電子メールの読み込み, 13
- DWA Extension, 7

E

- EAs Domino
 - 定義, 7
- EAs Dominoを使用するための必要条件, 7
- Email Archiving software
 - 「EAs Domino」を参照。
- Export Search
 - 前提条件, 21
 - トラブルシューティング, 23, 29

I

- IAP
 - 定義, 7
- IAP Webインターフェイス
 - 検索, 12
 - サポートされているWebブラウザ, 11
 - 説明, 11
 - ログイン, 11
- IAPアーカイブの検索, 17
- iNotes
 - 「DWA」を参照。
- Integrated Archive Platform
 - 「IAP」を参照。

L

- Local Cacheプログラム, 15
- Lotus Notes
 - アーカイブされた電子メールの読み込み, 14

M

- Microsoft Office, 8

P

- PDF, 8

W

- WordPerfect Office, 8

Z

- ZIPファイル, 8

あ

- アーカイブ
 - 定義, 8
- アーカイブされた電子メールのエクスポート
 - Export Search Desktopツール, 21
 - Export Search Webインターフェイス, 25
- アーカイブされた電子メールのキャッシュ, 15
- アーカイブされた電子メールの読み込み
 - DWAから, 13
 - EAs Dominoプラグインの使用, 15
 - IAP Webインターフェイスから, 11
 - Lotus Notesから, 14
 - Notesメールボックスリンクの使用, 17
 - エクスポート機能の使用, 21
 - キャッシュから, 15
 - 署名付きメッセージと暗号化メッセージ, 18
- 暗号化電子メール, 18
 - 開く, 19

き

- 規則
 - 表記上の, 31
 - 本文中の記号, 32

け

- 検索
 - IAP Webインターフェイス, 12
- 検索結果
 - 送信, 13
- 検索結果の保存, 23

さ

参考資料, 31

し

署名付きおよび暗号化電子メール
IAP Webインターフェイスでの表示, 18
表示, 18

そ

訴訟ホールド, 23

た

対象読者, 7

て

定義
EAs Domino, 7
IAP, 7
アーカイブ, 8
ドキュメント, 8
ドキュメントのインデックス作成, 8
レポジトリ, 8
電子メールの添付ファイル, 8

と

ドキュメント
参考資料, 31
定義, 8
ドキュメントのインデックス作成, 8
種類, 8
電子メールの添付ファイル, 8

ひ

表記上の
規則, 31

へ

ヘルプ
入手, 31

ほ

本文中の記号, 32

れ

レポジトリ
定義, 8